

平成28年度 第2回加工食品製造業における物流実態調査

平成29年3月

土佐経済同友会 第一次産業活性化委員会

1. はじめに
2. 調査の設計
3. 調査の概要
4. アンケートまとめ
5. アンケート考察
6. 調査票の回答結果
7. 聞き取り調査結果
8. 聞き取り調査のまとめ
9. 調査結果考察
10. 資料 / 調査協力企業一覧
11. 資料 / 調査票

1. はじめに

本調査は、高知県産業振興計画推進の加工食品物流の課題解決を目指し、土佐経済同友会第一次産業活性化委員会が計画、実施したものである。

平成 27 年度に「加工食品製造業における物流実態調査」を実施、一定、高知県内の加工食品製造業における物流の課題の全容を見ることができた。以下その結果。

その最終的調査の対象企業は、288 社、回収率は 37.5%で有効回答数は 108 票であった。主要な調査結果として 1) 県外取引先に発送している頻度については、「毎日」が 32%、「ほぼ毎日」が 29%、「毎週定期的」が 6%、「不定期」が 33%となっている。取引先の数では、「1 件から 10 件」が 36%、「11 件から 50 件」が 28%、「51 件から 100 件」が 12%、「101 件～500 件」20%、「501 件以上」4%となっている。2) 輸送手段は複数回答ではあるが、半数以上の企業が「宅急便」で 52%、続いて「小口便」が 20%、「チャーター便」が 16%、「自社車輛」が 5%、「鉄道二次輸送」と「空港二次輸送」が 2.2%、「船便二次輸送」が 1.7%、「空港留め」が 0.6%となっている。3) 利用頻度の高い輸送手段については、分類のつかない「トラック便」が 21%、「宅急便」53%、「小口便」が 11%、「ゆうパック」が 7%、「チャーター便」が 4%、「自社車輛」が 3%、「共同配送」が 1%となっている。4) 発送先については、地域と都市で聞いているが、まず地域については、上位が「関西」で 16.8%、「関東」で 16.4%とほぼ同じ数字となっている。そして 4) 物流関する課題については、一番多かったのが「料金が高い」で 51%、次が「商品の破損」で 21%、三番目が「商品到達時間の遅延」で 17%、などとなっている。(調査概要)

高知県産業振興計画に照らし、今後の商流拡大、食品加工業の発展・事業拡大に期待するのであれば、流通量の多い関東、関西エリア市場の拡大が不可欠である。しかし、四国島外への輸送は高額になり、これが産業振興を阻む一因となっている。

そこで、「第二回加工食品製造業における物流実態調査」を実施した。トラック便「共同運行」利用の可能性が高い平成 27 年度調査企業リストに、新たに積極的外商企業等のリストを加えて、関東、関西方面へ商品発送する 51 社を対象として調査した。その結果、26 社から有効回答が得られ、さらに、(株)けんかま、(有)高知パレスホテル、(株)高南食品、渋谷食品(株)、(株)タナカショク、ひまわり乳業(株)、(株)フードプランの 7 社から聞き取り調査を実施した。

2. 調査の設計

1. 調査対象

昨年度実施した「加工食品製造業における物流実態調査」においてトラック便利用で比較的輸送量の多かった企業リストに、新たに積極的外商企業等のリストを加えて、関東、関西方面へ商品発送する 51 社を対象とした。

2. 調査期間

平成 28 年 11 月～平成 29 年 1 月

3. 調査方法

- ①アンケート調査票を FAX 送付して調査
- ②事前に了解を得た上で、7 社から聞き取り調査

4. 回収

アンケート有効回答 26 社。聞き取り調査 7 社。

5. 調査主体

主体：土佐経済同友会・第一次産業活性化委員会
調査・報告書作成：松本事務所

[調査手順]

平成 28 年 9～10 月	1) 第二回アンケート調査検討会（計 6 回実施）
平成 28 年 10 月	2) 第二回アンケート調査票作成
平成 28 年 11 月	3) 第二回アンケート調査調査開始（対象 51 社）
平成 29 年 1 月	4) 第二回アンケート調査終了・中間報告まとめ
平成 29 年 2 月	5) 聞き取り調査実施（対象 7 社）
平成 29 年 3 月	6) 報告書作成

3. 調査の概要

1. 調査対象企業の実態

本調査の対象となった企業は、調査データの公表及び社名の公表に同意している。匿名を希望していないことから記入内容の信憑性が担保されている。また、加工食品製造業というカテゴリーではあるが、その取り扱い商品に偏りはなく、農業、漁業、畜産関連など幅広い製造業の意向を網羅していると言える。

そこで、まず、企業の積極性を問うために食品関連の商談会について聞いた。

(回答企業の社名は P18)

[調査概要]

(1) 関東、関西方面の食品関連の商談会への参加

参加しているが 88%で、参加していないは 12%となっている。営業活動のファーストアプローチとしての商談会の支持率の高さが窺える。

(2) 取得したいと考えている取引先

商社 20%、大規模小売店 26%、小売店 17%、飲食店 13%、専門店 9%、通販 6%、その他 9%となっている。また、その他にはホテル、メーカー、海外販路、グルメ研究会などが具体的に挙げられている。(複数回答)

(3) 商談会で反応が良かったにも関わらず成約に至らなかった理由

取引条件 27%、オーダーの量 8%、取引掛け率 19%、輸送コスト 24%、トラック便がない 8%、その他 14%となっている。

2. 企業の意思

本調査の対象が「トラック便共同運行」の可能性を探るものであることを率直に伝えて、その主旨に賛同するかどうかを尋ねた。

[調査概要]

(4) 共同運行に賛同するか

賛同するが 85%で、賛同しないは 4%、無回答 11%となっている。全 26 社の内、22 社が賛同しているという結果が得られた。

(5) ヒアリングに伺って良いか

はいが 50%、いいえが 30%、無回答 20%となっている。

3. 物流の状況

本調査の対象となった企業に出荷量、行き先などの物流の状況を聞いた。特に行き先については具体的に名称を聞いている。

〔調査概要〕

(6) 一ヶ月間の発送頻度

関東向けのトラック便では、ほぼ毎日が 65%、週 3 回は 12%、週 1 回は 8%、そしてその他・無回答が 15%となっている。

関西向けのトラック便では、ほぼ毎日が 54%、週 3 回は 15%、週 1 回は 8%、そしてその他・無回答が 23%となっている。

(7) 一回の発送量（段ボールの個数）

関東向けのトラック便では、5 箱未満が 27%、5 箱～10 箱が 4%、10 箱以上が 31%、毎回異なる・無回答が 38%となっている。

関西向けのトラック便では、5 箱未満が 27%、5 箱～10 箱が 12%、10 箱以上が 27%、毎回異なる・無回答が 34%となっている。

(8) 輸送温度（複数回答）

関東向けのトラック便では、常温が 47%、低温が 28%、冷凍が 25%となっている。

関西向けのトラック便では、常温が 50%、低温が 27%、冷凍が 23%となっている。ただし、低温、冷凍においては各便とも設定温度にばらつきがある。

(9) 流通センター、供配センター、卸売り市場を利用しているか。

関東向けのトラック便では、はいが 54%、いいえが 38%、無回答が 8%となっている。

関西向けのトラック便では、はいが 54%、いいえが 35%、無回答が 11%となっている。

(10) 発送先の主な施設名

関東方面では、鈴与（株）市川流通センター、（株）明治屋東日本物流センター、SBS ゼンツウ川口営業所、東京中央卸売市場（築地）、三菱食品（野田・埼玉・千葉菓子 DC）、キャメルコーヒー本牧物流センター、八潮物流センター、紀伊国屋共同センター、イオン DC センター、日生協 DC センター、ファミリーマート DC センター、神奈川県厚木配送センターなどの配送先が挙げられている。

関西方面では、大阪中央卸売市場、松江連合青果、（株）明治屋西日本物流センター、（株）万代堺物流センター、DCM 兵庫尼崎物流センター、大近チルドセンター（第一配送センター）、山星屋（鳥取・大山崎 BC）、関西スーパー天保山センター、イオン DC セン

ター、日生協 DC センター、ファミリーマート DC センター、旭（大阪・神戸）、マックバリュー（大阪・兵庫）などの配送先名が挙っている。

（11）名称が答えられない場合は所在地を記入。

関東方面では、東京、神奈川、千葉、東北の地域名が記入されている。東京でも江東区、町田市と絞り込んだ記入もあった。

関西方面では大阪、兵庫、京都の記入があった。

（12）目的の施設方面行きが無く、困ったことはあるか。

関東方面では、はいが 31%、いいえが 54%、無回答は 15%となっている。

関西方面では、はいが 27%、いいえが 58%、無回答は 15%となっている。

4. アンケートまとめ

まず、本調査が高知県内の加工食品製造業に確認したいと考えていた「トラック便の共同運行」について賛同するが 85%（26 社中 22 社）と、非常に関心が高いことが判明した。

また、発送頻度についても、毎日発送が関東方面で 65%、関西方面 54%と共同運行に可能性を期待させる結果となっている。

ただし、量的には、10 箱以上が関東方面で 31%、関西方面で 27%と、やや物足りない感も否定できない。さらに、輸送先も幅広い食品製造業に対するアンケートのため、ばらつきが見られる。ただし、若干の共通項として「東京中央卸売市場（築地）」「大阪市中央卸売市場」の名前が挙っている。また、輸送温度では、関東向けのトラック便では、常温が 47%、低温 28%、冷凍 25%。関西向けのトラック便では、常温 50%、低温 27%、冷凍 23%となっていて、常温と低温・冷凍で 2 分されている。

そして、今後の期待点として、東京、大阪方面にトラック便が無く未開拓としている企業が、30%程度あることと、各社が商社（20%）、大規模小売店（26%）を主な取引先としたいとしている点には注目できる。

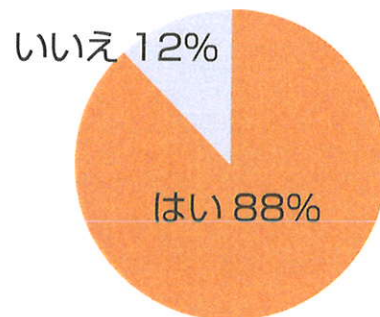
5. アンケート考察

本調査は、食品製造業の輸送状況の分析を目的とはしていない。状況の分析については、昨年度実施した「第一回加工食品製造業における物流実態調査」で充分に行われたという認識でスタートしている。そして、前回の結果を受けて、各方面と協議した結果、最大の課題となった「トラック便共同運行」の可能性について加工食品製造業から忌憚のない意見を聞くという目的で本調査は実施された。

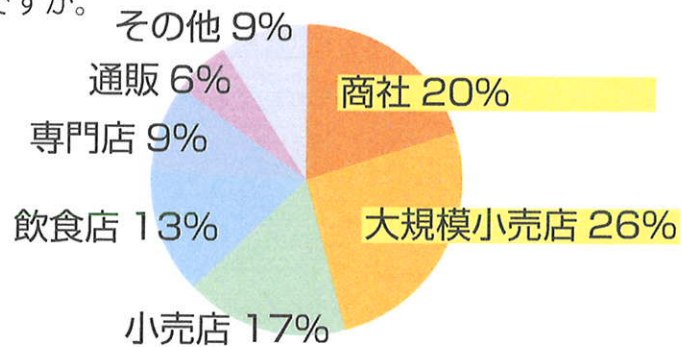
高知県が輸送について大きなハンディを背負っていることは誰もが認めるところであり、そのハンディ故に高額な輸送コスト負担や、取引断念という状況が現実としてある。もちろん、加工食品製造業と業態区分によって調査をしても、実際にその業務内容は各社様々で、輸送先も分散している状態で「トラック便共同運行」など不可能という見解があることも承知している。しかし、前項のまとめでも述べた通り、「トラック便共同運行」には調査対象の26社中22社が賛同している。当然、この22社全てが共同運行の利用者となる可能性は大きくない。それでも、その数字には「トラック便共同運行」に対する高い期待感のようなものが強く伝わってくる。

6. 調査票の回答結果

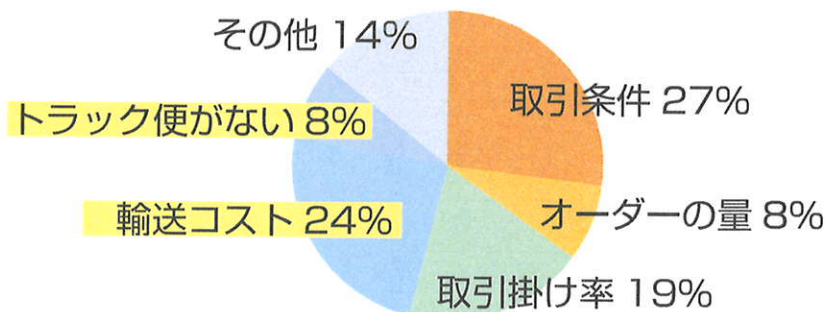
〔問 1〕 東京（関東）方面、大阪（関西）方面で開催された商談会に参加されたことはありますか。



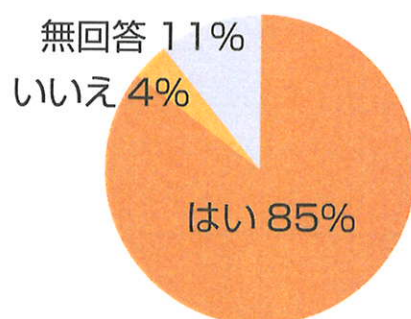
〔問 2〕 「はい」を選択された方にお聞きします。御社が獲得したいと考えている取引先はどこですか。



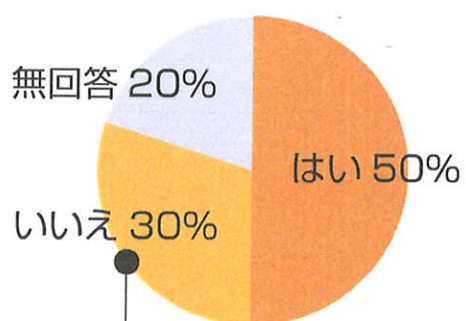
〔問 3〕 商談相手の反応、感触は良かったにも関わらず成約に至らなかったケースの、その理由は何ですか。（複数選択可）



[問 4] 土佐経済同友会が考えている「トラック便共同運行」と
「県産業振興計画への提言」について賛同しますか？



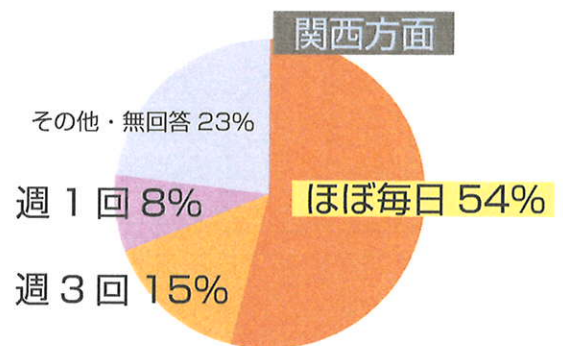
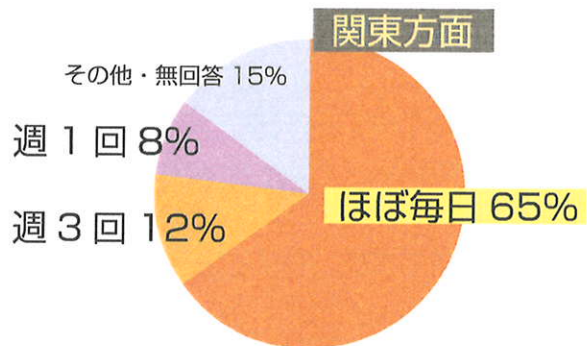
[問 5] 「トラック便共同運行」の可能性に関して、詳細な聞き取り調査のために
御社へヒアリングに伺ってもよろしいですか？



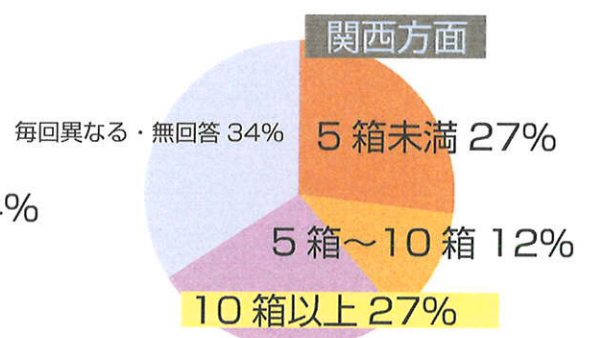
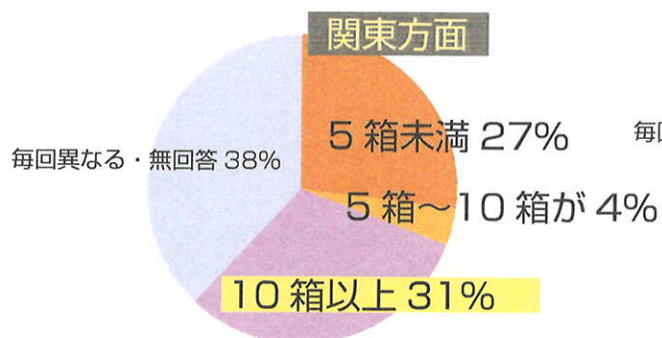
※小ロットのため宅配で対応

※物流拠点が埼玉県の業者へ委託のため

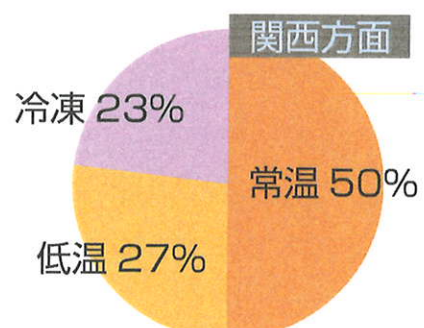
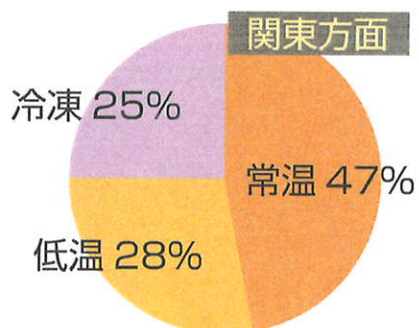
[問 6] 御社の1ヵ月における小口便（トラック便）の発送の頻度をお聞きます。



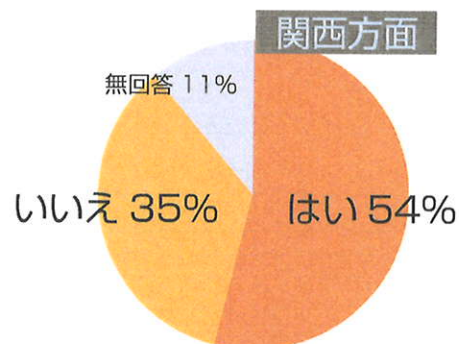
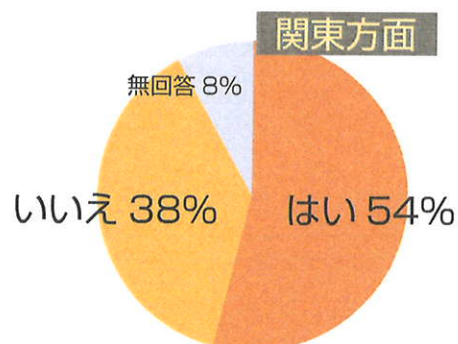
[問 7] 1回の発送は、ダンボール箱で平均、何箱ですか。



[問 8] 主な発送商品の輸送温度をお聞きます。



[問 9] 商品を流通センター、共同配送センター、卸売市場等へ発送していますか。



[問 10] 先の問いで「はい」と応えた方にお聞きします。主な施設名を教えてください。

関東方面

鈴与（株）市川流通センター
 （株）明治屋東日本物流センター
 SBS ゼンツウ川口営業所 東京中央卸売市場（築地）
 三菱食品（野田・埼玉・千葉菓子 DC）
 キャメルコーヒー本牧物流センター 八潮物流センター
 紀伊国屋共同センター イオン DC センター
 日生協 DC センター ファミリーマート DC センター
 神奈川県厚木配送

関西方面

大阪中央卸売市場 松江連合青果
 （株）明治屋西日本物流センター （株）万代堺物流センター
 DCM 兵庫尼崎物流センター
 大近チルドセンター（第一配送センター）
 山星屋（鳥取・大山崎 BC） 関西スーパー天保山センター
 イオン DC センター 日生協 DC センター
 ファミリーマート DC センター 旭（大阪・神戸）
 マックバリュー（大阪・兵庫）

[問 11] その施設名をお答えになれない場合は、所在地のみ教えてください。

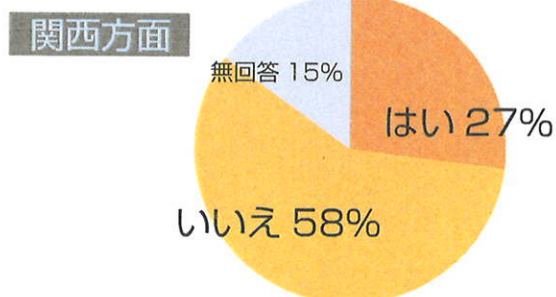
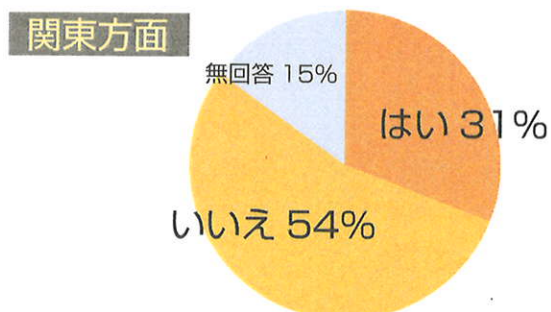
関東方面

東京・神奈川・千葉・東北
 ※東京エリア（江東区・町田市）の記入あり

関西方面

大阪・兵庫・京都

[問 12] 目的の施設方面行きが無く、困ったことがありますか。



7. 聞き取り調査結果

アンケート調査に引き続き、平成 29 年（2017 年）2 月 13 日に下記の通り聞き取り調査を実施した。

<記>

日時：2 月 13 日（月） 10 時～12 時

会場：J A 高知ビル 1 F 会議室

出席企業：株式会社けんかま、有限会社高知パレスホテル、株式会社高南食品、
渋谷食品株式会社、株式会社タナカショク、ひまわり乳業株式会社、株式会社フードプラン
オブザーバー：高知県地産外商課、高知県トラック協会、高知県食品外販協同組合
進行：土佐経済同友会・第一次産業活性化委員会

[聞き取り調査・発言概要]

■聞き取り調査の主旨説明

県産業振興計画において加工食品製造業をひとつの柱にしようという考えに基づき地産外商が推進されているが、営業活動の成果が出て契約も伸びている反面、定番率は半分ぐらいに留まっているので、これを何とかしなければならないと考えている。

昨年、加工食品製造業約 300 社に 1 回目のアンケートを取った結果、108 社の回答を得て分析したが、なかなか難しい面があった。また、昨年暮れには、特に東京大阪方面に積極的に展開しようとする会社、51 社を対象に 2 回目のアンケートを取り、26 社から回答を頂いた。本日は、その中から 7 社に、このヒアリングの会に出席頂いた。本日は、もう少し突っ込んだ話を伺って、共同運行使便の可能性があるのでどうか聞かせて頂き、今後、土佐経済同友会としての提言に反映させたいと考えている。

■外商の現状、課題、そして今後について

A 社；現在の売上の主は、業務用の冷凍商品、量販店の惣菜売り場向けなどである。県外発送の冷凍は KY 運送、冷蔵は MO 運送、その他は宅急便を使っている。課題としては、高知ブランドだけでは太刀打ちできないこと。商談会よりも商品力の強化を重視している。冷蔵は価格と、リードタイム（受発注から納品までの時間）という課題がある。今後については商品力強化の取組みが当たれば、物流が増える可能性はある。

B 社；現在の県外輸送の中心は、東京の自社店（スカイツリーの東京ソラマチ内の惣菜店）へ輸送。毎日、冷蔵（5 度帯）、15 kg × 5 箱（70 ～ 80 kg）程を YT 運輸で送っている。輸送の課題としては便の遅れが月 1 回程度あること。また、輸送途中で一部商品が腐る事故がある。その場合の運送会社からの保証はない。商品は夕方送って翌日夕方に届く。リードタイムは早い方が良く、他に早い便があれば変更していきたい。YT 運輸は、ホテルの荷物も利用しているので割引はされていると思う。将来的には店舗増加を目指している。店舗が増えればそれに伴い送る商品量も増えるだろう。

C 社；現在、県内スーパーへの惣菜出荷がメインであるが、2 年前にロングライフチルド（賞味期限 40 日）の設備を導入し、関東圏まで販売エリアを伸ばしている。輸送便は YT 運輸がメイン。小口が多く、送り先も多い。店舗直送が 100 ～ 200 カ所ある。卸業者から物流会社の紹介も受けるが、物量が合わず（少量）、最終的に YT 運輸メインになっている。出荷は年々増えているが、自社のトラック便、チャーター便までは物量がないので困難。1 日最大トラック半分程度しかない。今後、共同運行便ができ、コストが少しでも下がれば、収益面も改善し、出荷量も伸びる可能性はある。

D 社；現在、芋けんぴはほぼ毎日、東京、大阪のセンター、問屋へ輸送している。店舗直接はない。輸送便は SN 運輸、FY 通運で常温輸送。スイートポテトは、福岡、大阪、名古屋、東京、北海道の契約倉庫に一括入れる。鹿児島工場からのペースト等は福岡の倉庫（マルハ）に入れ、そこから店舗に送っている。こちらは、全てチャーター便。問題点は、ドライバー不足で待たされることがあること。今のところ値上げの話はない。東京の直営店へは常温メインで習志野の契約倉庫へストックし、そこから毎日配送している。東京のテナントビルは、厳格に配送時間が決められているためだ。

E 社；かつて、豆腐を月 2,000 万全国に出荷していた。その時は物流が最大のネックで、他県に値段勝負で負け、先方に合せざるを得ず、6 年頑張ったが、現在では一般の豆腐は基本的に撤退している。一部は送料を負担いただき月、数 10 万出荷している。輸送便は YT 運輸。150 個まで送料同じであるが、現実には 20 個口からお願いしコストはかかっている。ただ、今のやり方が弊社にとってはベストと考えている。カサのかかる、賞味期限が短く痛みやすいものは除外し、県外に出荷しない。スーパーマーケットも視野に置いてない。完全に業務筋がターゲット。また、ギフトセット、お歳暮、お中元への提供に切り替えている。今後の事業展開に向けて、真空包装、常温でいける「豆腐でない豆腐」を開発している。そうなった時にさらに物流のコストダウンができる。付加価値を付けた商品を目指す。来年 1 月に工場をリニューアルする。生産量は高知半分、県外半分。毎日でなく定期便。東京が多い。

F 社；現在、大阪は毎日 1 便、朝 6 時 30 分出発、8 t 車チャーター便、だいたい満車。岡山便 1 便、そこから姫路、広島へ。10 t 車だが、4.5 t の価格。いま、観音寺経由大阪便を計画している。大阪から先は物流費を先方に持ってもらう。量販店には問屋を介さず直接卸す。東京へは YT 運輸でほぼ毎日。価格競争に巻き込まれない付加価値のある商品を目指している。5 ～ 20 店舗の量販店をこちらで選んでいる。関西ではイカリ、ヤマダストア、平和堂、生協。関東はイセタン、フクシマ屋、ミウラ屋、名古屋はサポーレなど。量販店での定番化はリードタイムでハンディが大きい。課題は朝便をどう繋ぐか。高知からの帰り便の空きも探している。

フードプラン；現在の主力商品はカット野菜。関東便は YT 運輸、関西便は NK 物流。ほぼ毎日送っている。相手は量販店が中心。リードタイムは 2 日。現在、工場拡大中で生産量は倍増まではいかないが、かなり増える。増加した分は、関西のスーパー、四国内も増やしたいと考えている。関東方面は商談次第で未知数。

■共同運行便の可能性について

A 社；今後の力の入れ所は量販店ではなく、業務筋としている。あえて県外の量販店となると余程の理由がないと 1 段目の商品とならず、まとまった量にならない。共同運行便については、共同の販売戦略があれば乗る。

C 社；当社の課題はロット数が合わず、少量を多店舗に送ることができないこと。D 社さんのように配送センター、ハブ拠点があれば、それが可能になる。つまり、二次輸送の仕組みが構築されれば、各社は共同運行便に乗りやすい。

G 社；県レベルの配送センター、ハブ拠点は理想である。商談時に物流を聞かれた際、宅配と答えると取引先に不安がられるが、しっかりした仕組みがあり、迅速性があれば地産外商はもっと広がる可能性がある。物流の課題は高知県の場合、何をやるにも肝になってくる。商品力だけではやっていけないところがある。宅配便しか選択肢がないことで勝機を逃している。

E 社；物流の障害は取り除けない。その課題の中で何ができるかが今の結論、つまり付加価値商品だろう。高知県の食品業界の課題は皆さんの言う通りであり、これを克服しない限り先は見えている。そうなる前に手を打つべき、できる時にやっておくべきだろう。全国に物流拠点を持つ AH 食品への協力依頼はどうか。納得してもらえる高知スタイルの営業方針を提案してみる価値はあるだろう。

F 社；1 番のネックは時間の制約。大阪便の納品リミットは 18 ～ 25 時、関東は 6 時半発 19 時着となる。夕方発注を受け、翌日朝までに製造し、その日のうちに東京まで送る。特殊な例だと思うが、通常の時間帯の荷物もある。共同運行便ができると楽になると思うが、時間の調整が難しいだろう。また、配送先に合わせた二次輸送のための拠点作りも必要になってくる。AH 食品は商社なので、物流だけの依頼は難しいだろう。

C 社；MG さんからは KF の空便に乗せてくれという話もあるので、AH 食品も可能ではないか。価格、制約をうまくコントロールしていけば可能性はある。

F 社；SH 食品が物流だけで受けてくれるかどうか、商流もであればだが、やはり乗りにくい話だろう。それより、問題は、荷物を誰がいつどうまとめるか、また拠点から横持ち（二次配送）をどうするかであり、これによりこれまでも話が進んでこなかった。

G 社；誰がイニシアティブを取るかは別として、共同運行便さえあれば何か動きは変わるし、売上につながるということは確実である。定番か、インプロかは業種によって違うと思うが、定番を目指していくとなると、やっぱり便に困っているのは現実だ。

外販組合；私共もずっとこの課題に取り組んできた。県も一緒になって色々と議論した。最初、宅配便業者に話をしたが、価格面で断られた。次に、某社さんに相談したが、横持ちや集荷の時間、場所の課題でまもらなかった経緯がある。しかし、共同運行便という仕組みには組合としても是非乗りたい。まるごと高知が県のハブにならないだろうか。量は少ないかもしれないが、県が積極的になれば何かのきっかけになる。

G 社；仕組み作り、その仕組みの受け皿の問題ということは共通の認識だろう。二次配送は東京、大阪の専門業者を利用すればできることなので、問題はない。地場企業の拡大再生産のために共同運行は必要と思う。

8. 聞き取り調査のまとめ

トラック便共同運行に関しては、積極的に賛同という声が上がった。ただ、その仕組み作り、システムの受け皿には課題を残すという点でも、意見が一致した。二次輸送も含めた詳細な計画の策定と、運営母体作りは、トラック便共同運行の実現に欠かせないポイントというような具体的な結論を得た聞き取り調査の意義は大きい。また、共同運行便に限定せず、様々な方策（AH 食品への協力要請など）との組み合わせも考える余地があるだろうという意見もあった。こうした視点も、今後の課題としていかなければならないだろう。

9. 調査結果考察

トラック便共同運行に関しては、実に2年余の時間を費やし調査、各方面との議論を重ねてきたが、各方面から、話を聞く中に、「また、その話か…」という声があった。つまり、本調査は2年にも及ぶなどと胸を張ることは出来ない。同様の可能性を探る調査、議論は永年、繰り返されてきたということだ。では、なぜ、これまで実現しなかったのか。奇しくも、その答えの一つは、最後の聞き取り調査の中にあった。誰が、実施計画を作成し、誰がその輸送システムの受け皿となるかということだ。

2度にわたる調査結果に、あらためて目を通せば、取り扱い商品の違い、事業展開の違い、輸送先の違い、納品時間帯の違い、輸送温度帯の違い、二次輸送の課題などが否応なく浮かび上がってくる。これらを調整し、加工食品製造業の合意形成することは、一見容易ではないように思える。

本調査では多くの企業から、貴重な時間を惜しまず協力頂いた。調査を進めれば、進めるほど、課題が噴出する調査ではあったが、逆に、それは実態を明らかにしたという意味において成功と言える。

多くの企業から賛同の声が上がったが、共同運行使実現は容易ではない。しかし、共同運行使の輸送システムの受け皿作りなど、課題が明らかになっている。実行しなければならぬことが明確になれば、必ず、その解決策を講じることができる。ただし、それは民間努力だけでも、行政の努力だけでも困難な課題であることは間違いなく、官民協働が必須だろう。そして、ともかく何かを始めなければ、また数年後に「また、その話か…」という繰り返しになるのは間違いなく、本調査は、それを雄弁に物語っている。

[調査協力企業一覧]

株式会社フードプラン

高知缶詰株式会社

株式会社高南食品

有限会社野村煎豆加工店

株式会社けんかま

ひまわり乳業株式会社

マリンゴールド株式会社

株式会社タナカショク

渋谷食品株式会社

株式会社青木食品

有限会社高知パレスホテル

他 15 社

⑧ 平成 28 年度 加工食品製造業における物流実態調査

調査第二弾

「加工食品製造業の物流における課題解消」 のための調査へのご協力をお願いします。

「平成 27 年度 加工食品製造業における物流実態調査」へのご協力ありがとうございました。

この度、調査第二弾として

■トラック東京便、大阪便に限定して「共同運行」の可能性調査

■加工食品製造業活性化に係る行政への提言のための調査

を実施いたします。

皆様には、ご多忙のことと推察申し上げますが、本主旨ご理解の上ご協力の程、よろしくお願いいたします。

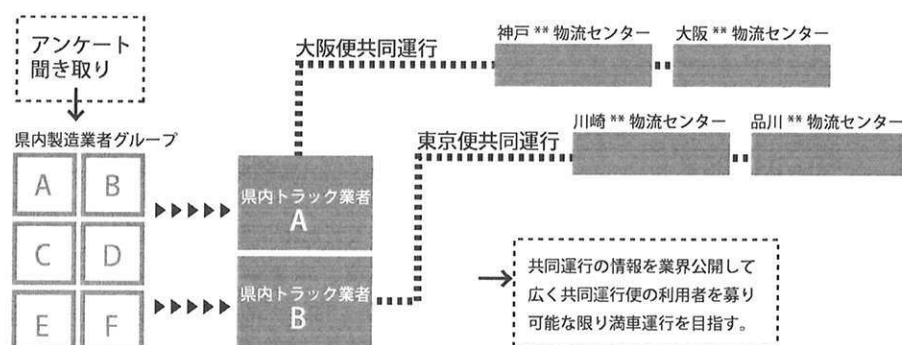
土佐経済同友会 第一次産業活性化委員会

〒780-0823 高知市菜園場町 1-21 四国総合ビル 3F 四国地域経済研究所内

問い合わせ：委員会担当 栗田 090-3186-2056

トラック便共同運行のイメージ

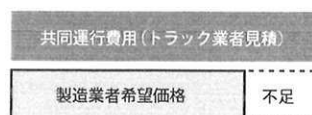
土佐経済同友会は、共同運行で県産業振興を考えています。



高知県産業振興計画への提言イメージ

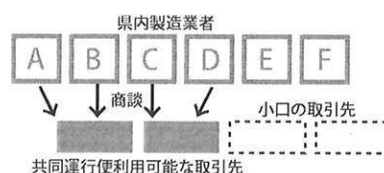
土佐経済同友会は、以下の提言を検討しています。

1：共同運行の支援について



四国島外へのトラック輸送コストは高額になり、これが産業振興を阻む一因となっている。
そこで共同運行という手法が浮上しているが、それでもコスト的ギャップが埋められないため、県産業振興策の一環としての支援を提言する。

2：展示会運営等について



永遠に支援に頼らないために、製造業者の商談スキルアップ指導、展示会における輸送リスクのない業者との商談推奨などを提言する。

企業名・事業所名等

フリガナ

企業名・事業所名

フリガナ

アンケート回答者氏名

役職

メールアドレス

※本アンケートは、記入者の個人情報について法律を遵守します。

スーパーマーケットトレードショー

などの食品関連の商談会参加について伺います。

Q01 東京（関東）方面、大阪（関西）方面で開催された商談会に参加されたことはありますか。

☐ はい ☐ いいえ

Q02 「はい」を選択された方にお聞きします。御社が獲得したいと考えている取引先はどこですか。

☐ 商社 ☐ 大規模小売り店 ☐ 通販会社 ☐ 専門店 ☐ 飲食店 ☐ 一般小売り店 ☐ その他（ ）

Q03 商談相手の反応、感触は良かったにも関わらず成約に至らなかったケースの、その理由は何ですか。（複数選択可）

☐ 取引条件 ☐ オーダーの量 ☐ 取引掛け率 ☐ 輸送コスト ☐ 届け先へのトラック便が無かった
☐ その他（ ）

◆本アンケートの主旨、目的について伺います。

Q04 「トラック便共同運行」について賛同しますか？

☐ はい ☐ いいえ

Q05 「トラック便共同運行」の可能性に関して、詳細な聞き取り調査のために御社へヒアリングに伺ってもよろしいですか？

☐ はい ☐ いいえ

ご協力ありがとうございました。「返信 2」もご記入の上、誠に勝手ながら平成 28 年 11 月 29 日（火）までに FAX にて返信をお願いします。

土佐経済同友会・第一次産業活性化委員会

FAX: 088・883・1156

調査表

返信 2

	▼東京（関東）方面	▼大阪（関西）方面
Q06 御社の1ヵ月における小口便（トラック便）の発送の頻度をお聞きます。	☐ ほぼ毎日 ☐ 週3回ほど ☐ 週1回ほど ☐ 上記以外（ ）	☐ ほぼ毎日 ☐ 週3回ほど ☐ 週1回ほど ☐ 上記以外（ ）
Q07 1回の発送は、ダンボール箱で平均、何箱ですか。	☐ 5箱未満 ☐ 5箱以上～10箱未満 ☐ 10箱以上～ ☐ 毎回異なる	☐ 5箱未満 ☐ 5箱以上～10箱未満 ☐ 10箱以上～ ☐ 毎回異なる
Q08 主な発送商品の輸送温度をお聞きます。	☐ 常温 ☐ 低温（ ～ 度） ☐ 冷凍（ ～ 度）	☐ 常温 ☐ 低温（ ～ 度） ☐ 冷凍（ ～ 度）
Q09 商品を流通センター、共同配送センター、卸売市場等へ発送していますか。	☐ はい ☐ いいえ	☐ はい ☐ いいえ
Q10 先のQで「はい」と応えた方にお聞きます。主な施設名を教えてください。	（ ） （ ） （ ） （ ） （ ）	（ ） （ ） （ ） （ ） （ ）
Q11 先のQで「はい」と応えた方にお聞きます。その施設名をお答えになれない場合は、所在地のみ教えてください。	（ ） （ ） （ ） （ ） （ ）	（ ） （ ） （ ） （ ） （ ）
Q12 目的の施設方面行きの方が無く、困ったことはありませんか。	☐ はい ☐ いいえ	☐ はい ☐ いいえ

企業名・事業所名

ご協力ありがとうございました。